

二 仏法は讚嘆談合にきわまる

終戦第四年が来た。本部ではありがたい年の暮を送り、ありがたい元旦を迎えた。能母木氏、田坂将さん、高木君、小野雅生君等が年越しに加って二十人ほどであった。本部ではじめて歳をとった同胞たちは、生れてはじめてのありがたい年だと言っておられる。ありがたい年といつても別に何も変わったことはない。唯、皆念仏申すだけである。元旦に眼がさめると南無阿弥陀仏。本年の精進目標は

- 一、いよく念仏申すこと、
- 二、大法の御讚嘆、
- 三、忍の生活、
- 四、物を大切に、

いよく念仏申すことは総であり、後の三は別である。この御讚嘆とは、以前にも頂いたことがあるが、薄如上人の「仏法は讚嘆談合に極まる。よくよく讚嘆せらるべき由仰せられ候」とのみ教を如実ならしめよといふ意である。これは到つて容易なことで又甚だ難事である。説教講演なら誰でも出来る。しかし御讚嘆は出来ない。親子の間で御讚嘆が出来るか。夫婦の間で、兄弟の間で、友人の間で、御讚嘆が出来るか。御讚嘆の世界がわかると行づまりは至るところにあることがはじめてわかる。

御讚嘆の花を咲かせよ、この年一年。

忍の生活とは、日本の現状から言つたのである。年末遂に発券高二千二首億円を突破した日本の現状は、常に高熱患者そのものである。本年こそいよいよ生活は苦しくなるであろう。我等はたゞ念仏して忍終不悔の生活を成就して、これに応ずるより外に道はない。

第四に物を大切にというは、本年は蓮如上人の四百五十年忌である。それには何よりも、念仏して蓮如精神を生きたことが大切である。蓮如上人は、仏法領のものとして全ての物を拜んで大切になさつた方である。この精神を頂こうというのである。同胞の皆様、物を大切にいたしましょう。

たった一句の言葉、それが御身を代表する。一口の愚痴、一口の呪い、それが唯の言葉であるか。見よ、その呪われたる顔、その暗い暗い顔、毛孔の一一が皆愚痴、皆呪いに動いているではないか。しかるに「あゝ有難うございます」の一言、その顔を見よ、細胞の一つ一つが喜びに輝いていないか。三毒の煩惱だけで未通つた喜びがあるものか。人は死の病の床に座した時一番正体を現す。愚痴の悲しみは汝が受取らねばならぬ責罰であり、感謝は聞法精進に対するみ仏の御恵み御褒美である。こしらえて感謝することも、造つて愚痴を隠すことも出来ない。それこそどがあもならんことである。自分の影法師が外に映つて見えるのだから。御法を真に聞いて信

を得ていないと、百万長者も学者も成功者も、愚痴と底なき悲しみしかない死が来るぞよ。誰にも彼にも、愛想をつかされて死んでゆく無信者の末路こそ、げに哀れというもなかなかおろかなり。

自由々々と時代の流行語、その自由は、あたかも床の上の金魚鉢の中の金魚の自由、右に左に自由なものだが、上からは猫がためており、側には腕白が棒を振っている。ガラスの鉢で行詰りが見えない。至る所が行詰っているも一向に壁が見えない。行詰っていて壁が見えない人の自由は、金魚鉢の自由である。親子の間が悪くても、夫婦喧嘩が続いても、何をしても何が起つても行詰りが見えない。それは全く無自覚の死である。限を開いて見よ、汝の前には宿命の岩壁がそそり立っているではないか。有碍そのものである我を知ったものが、道を求め法を聞く。「念仏者は無碍の一道なり」との絶対超越の境地はそこから生れるのである。

人間と人間との住むところ、そこには必ず善悪々々とかまびすしい声が聞える。誠に八万四千の雑音のはてさてやかましいことである。裁く声、呪う声、悲しむ声、責める声等々、皆善悪の声である。こうした八万四千の雑音の中に、たった一つ真実なる声が聞える。この唯一つの至純明澄なる声がないならばどうであろうか。如来招喚の勅命、真実教、讚嘆念仏の声、言葉はかわれども八万四千の雑音を超えての真実の声である。この声のみが私を生かして下さる。

「煩惱具足の凡夫、火宅無常の世界はよろづのことみなもてそらごとたわごと真実あることなきに念仏のみぞまことに在します。」

讚嘆念仏の外はすべて雑音である。そらごとである。口を閉じるのだ。念仏以外はみな有碍の悪業である。「自讚自毀 讚他毀他、智者不行」(智度論)自らを讃えても他人を讃えても、自分を貶しても他人を謗つても、みな体には自力我慢我執名利貪欲があつてのことである。如来本願の廻向表現たる念仏、その念仏より出でたる言葉以外に何で真実があらう。

お念仏はお浄土のものがこの世にあつて下さるのである。そんなことは、分りきつたことだと言うかもしれない。しかし、いざ生活となればお念仏は抜きにして、三日でも五日でも毒々しい善悪の声のみが出ている。悲しむべきはこのことである。

悪いことを聞いても自分のところで止めて次に移さない人。この人は尊い人である。誰にでも誤解することがある。しかし誤解の方向がその人を決定する。

徳ある人は他に徳を拝んで徳を求めない。徳なき者は、他に徳を求めてかえつてその眼糞鼻糞のみを見る。

誰でもいい、夜晁が悪を言つて下さい。面とむかつて言えずば社会に向つて言つて下さい。何でもいい、間違つていてもいい。今こそ声を大にして言つて下さい。

世に畏るべき人がある。若くして聞法精進し、一句一言の教法も全我を以って受け、日を惜しみ時を惜しんで勉強精進する人である。しかして私は目の前にこの人あるを喜んでゐる。

「氣迫を大きく、ものごしを低く」これが去年の元旦の若人たちへの私の言葉であつた。

師長の前では真面目そうにふるまい、陰にまわれれば「ああ言うたつた」「こうしてやったつた」という青少年がある。この人は、そのままではたとえ今頭がよくても、学校へは行つていても、必ず何時か大どろぼうになる人物である。

生得の機は悪くても聞法精進する人は必ず世の光となる。まじめに精進する人を如何に悪く言つても、私の心は動かない。

山羊は山羊だから助かるのではない。虎は虎だから助からないのではない。山羊が山羊であることも虎が虎であることも宿業である。宿業はこれをどうすることも出来ない。自他共にどうすることも出来ない。宿業の大地の上に念仏の花が咲いて助かるのである。

我が子が念仏の道に入つてから、複雑な暗い家庭の空気が明朗となり、それに動かされて講習に來た親がある。念仏の子を持った親ほど幸な親があるうか。強盗や不良になつた子を持つて泣いている親もあるのに。

念仏の親ほどありがたいものはない。「念仏の子になつてくれ」、それがたつた一つの願である。念仏申さぬ親には無理がある。甘ければ子を損い、厳しければ子を害する。念仏の母は私のいわゆる人類の教師である。

教官たちよ、人数の教師となれ。人類の教師とは、教官服をぬがせ、教壇上を去らしめて、人生の荒野に立たしめた時、そのままが人類の教師であることだ。人類の教師でないものが教官であるのは哀れである。それは道化役者だからである。

どうしたら人類の教師になれるか。真実一人の師を持つて、一生を被教育者になることである。親鸞聖人の如く。

道魂は童魂である。願往生心は童魂である。幼児の童魂は童魂であつても道魂ではない。しかし成人の道魂は必ず童魂である。もし道魂が童魂でないならば菩薩道ではなくて二乗である。

人生は永久に五濁悪世であり、生死の苦海である。それに徹すべきである。わかっているか、わかっているか。この世は何時までたつても、生死の苦海であり、五濁悪世であることを。それを忘れたところに聖道門的なものの考え方があり、いらぬはからいや不徹底な生き方がある。生死煩惱の菌林であることに徹した時、それに染まぬ念仏道が、たった一つの生きる道であることがわかつて来る。

新年早々、教育部合と御正忌と二講習を魔事なく済ますことが出来た。み親と御同胞のおかげである。ありがたく嬉しい。拝んだ数々の尊い出来事。じつと考えていると涙がわく。ありがとう御座います。(二三、一、一九)